



# Hi from Kori

姉妹都市交流提携20周年を記念してカナダ・キャンモア町から英語活動教育指導員として来町したコーリー・チューイーさんのホットなコラム。

## Higashikawa Newspaper

I woke up late Sunday morning to over-happy noisy birds and the ambition to leisurely hike up Mt. Asahidake.

I was greeted at the base of the gondola by the polite trampling of 'hardcore' Japanese hikers with gear I have only seen in Mt. Everest videos. I felt extremely unprepared for my adventure, but was excited for my first mountain experience in Japan.

The curious volcano greeted me with puffs of angry steam and the beautiful landscapes of random lakes, snow and miniature mountain flowers peaked through the clouds.

The 2 hour, 2291m ascent consisted of a rainbow of volcanic rocks. There were layers of cerulean blue, egg yoke yellow and coral pink igneous rocks that turned into stones as black as a shoulder after Mikoshi!

The exhilaration from the summit was quickly scared away by piles of volcanic sand that found a new home in my shoes during the descent. The real adventure began when I didn't have enough money for the gondola down. After a few false attempts, I finally found the poorly marked path to the bottom.

Although the path was scary at times, some of the views were spectacular! I arrived at the bottom of the mountain just in time to see a beautiful sunset. An amazing day in Japan!



## 東川新聞

日曜日の朝、驚喜する鳥の鳴き声で目覚め、ゆっくり旭岳に登ろうと思いました。

そしてロープウェー乗り場に行ってみると、エベレスト登山のビデオでしか見ないような登山用具で身を固めた「ハードコア」で礼儀正しい日本人ハイカーの足音に出迎えられました。自分の冒険に急に自信がなくなりましたが、それでも日本で初の登山体験にわくわくしました。

出合ったのは怒りの蒸気をあげる不思議な火山、雲間に点在する湖と雪、そして小さな高山植物の美しい景色です。2時間に及ぶ2,291メートルの登りは、虹色に変わる火山岩との出会いです。緑を帯びた鮮やかな青色、黄身のような黄色、珊瑚のようなピンク色の火成岩、そして（東川神社の秋祭り祭典で）御みこしを担いだ後に黒ずんでしまった私の肩ほど黒い岩。

頂上に着いた喜びもつかの間、下りは靴に入る火山性の砂がこわい。でも本当の意味での冒険が始まったのは、下りのロープウェー代がない、と分かったときのことです。何度か迷いながら、おぼろげな道をたどって下山しました。

下りは何力所か怖いところもありましたが、景色が本当に素晴らしかった。

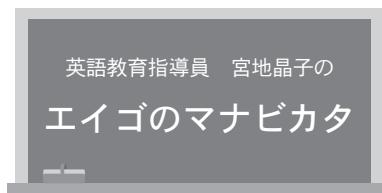
下まで降りたとき、ちょうど美しい日没を迎えられ、日本での素晴らしい一日となりました。

(訳：宮地晶子)

## 【ちょっと豆知識】

今回のコーリーさんのエッセイには、3つの色の名前が出てきました。色にもいろんな呼び方があるようですね。そういえば、以前は色鉛筆に「肌色」というのがありました。でも肌の色が違う人種が混在する社会では、「肌色って誰の?」と問題になって、各社は「ライトオレンジ(うすだいたい)」や「ペールオレンジ」と呼び方を変えました。アメリカ人なら誰もが知っているCrayola(クレヨラ)社。このクレヨンにも「flesh color」という色がありました。(fleshとは肉体という意味)。これも問題になり「peach(ピーチ)」に変わりました。

「ご自分のお子さんにどれくらい熱意をもって接していますか。私事ですが、勉強に部活動に、と忙しくなったわが子を見て、夏休み前に「どうやって休みを過ごさせようか」と迷いました。「長期休業こそ良書の一冊も読んでほしい。でもこんな時こそんびりと」も思う。そんなときテレビですごくいお母さんを見ました。その人は3児の母。息子2人を京都大学、1人を東京大学に入れました。そして今はそれぞれが医者、弁護士、大学院生だそうです。「自分は国立大学に進学させてもらえたので、子供にも同じようにしてやらなければ親に申し訳ない。でも夫はサラリーマンで自分



第64回  
才能の出し惜しみ!?

は専業主婦。塾に行かせる余裕はない」。そこで、彼女は子供が宿題をする時は毎日側にいて、洗濯物をたたんだりしながら子供の勉強に目を配りました。感心するのは「先生の批判はしない」「先生の足りないところは自分が補う」と決めていたところですが(すごい!)。なにより驚いたのは、まじめにやらない息子に「才能の出し惜しみをするな!」と言って町内中を追いかけまわした、というところ。とにかくこの言葉にはガツンと殴られたような気がしました。いわく「子供は勉強を苦手だと思いつつも、そのほうが楽だから」。いやあ、これは本当に目からウロコでした。「やればできる」のに「やらない子」は、そのほうが楽だったからか。ああ。もつたない。「才能の出し惜しみをするな!」。これ、家で使ってみませんか。もっともこちらでも疲れていると、つい「ゲームしてくれるほうが静かだいい」なんて思ったりする。これはこれで「愛情の出し惜しみ」(?)。